

養護教諭部会 理論研修会 終了報告

テーマ	「子どもの問題をみる3つの見方」	
日時	令和元年10月18日(金) 13:30~15:30	
会場	北広島市立西の里中学校	
講師	北海道大学大学院 教育学研究院 准教授 加藤 弘通 氏	
参加者	95名	
研修会 の 様子		<p>基本の見方として</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「できないこと」ではなく「できること」をみる。 ②「なぜ」よりも「なに？」を考える。 ③問題(できないこと)を「分けてみる」。 <p>を学びました。</p> <p>できない子どものせいにする前に、「その方法ではできない子と考えてはどうか」と提唱されました。また、子どもや相手の動きが悪い時は、自分の指示が伝わっていないと判断してほしいとも話されました。</p>
		<p>問題を解決するためには、必ずしも「人が変わる必要はない。関わり方を変える！」</p> <p>子どもを変えるより、教師の関わり方を変える方が良いことも学び、「目からウロコが落ちた」との感想がたくさん寄せられました。</p> <p>また、大人は「1つのこと」と見ているものでも、子どもにとっては、何個もの課題をクリアしないとできないこともある、とも学び、保健室で接する子は、何につまづいているのかを分析する考え方も学ぶことができました。</p>
		<p>途中のVTR(はじめてのおつかい)を見て涙する先生も多数。大人(母)がさせたいことと、子どもができることのズレを「はじめてのおつかい」で示したものでしたが、学校や保健室では、課題を分けて、スモールステップの取り組みで成長できる子どももいるという見方が必要とも学びました。</p> <p>感想からも、「できること」に目をむけた関わり方で、子どもの支援や指導に活かしたいとの声を多数いただきました。</p>